

## 2012 SUPER GT Rd.3 MALAYSIA

「Keeper Kraft SC430 今季初ポイントをゲット！」



2012 SUPER GT第3戦。

前戦富士ラウンドから約1ヶ月、SUPER GTではすっかり定番となった海外戦のマレーシアはセパンラウンド。

今年は例年より約10日程早く、それにより気温・路温といったファクターがどう変わるのか？ 事前のテストデータが生きる天候となるのか？

ここセパンはF1も開催されるサーキットであるが、その天候の変わりやすさでも有名であり、チームはそのコンディションにどこまで合せ込めるのか？

「LEXUS TEAM Keeper Kraft」は国内のレースより2日程早い水曜日から現地に入り、大型のコンテナで海上輸送された機材とマシンをピットへと運び込み、2日間に渡ってレースの準備を行った。

さすがに赤道直下マレーシアに位置するサーキット、セパンでのSUPER GTが始まった頃にはその暑さにドライバーもメカニックも驚いたものだが、ここ数年は何故か暑さも弱まり、人によっては「夏の鈴鹿の方が暑い」と言うほどの状況であったが……今年は一転、例年より10日程早い開催によるものか？ ここ数年セパンで経験した事の無い程の暑さの中、1年振りのセパンラウンドが開幕。

開幕戦から2戦、初めてのGT500を戦う2人のドライバーには試練のレースが続いており、なかなか思うように結果が残せていない「Keeper Kraft SC430」シーズン全体を通すと、もはや後のない状況であり、ここからは1戦1戦を手堅くまとめ、最低でもポイント圏内でのゴールと課題でもある表彰台を目指し、頑張らなければいけないレース。

特に今回アンドレアにとっては初めてのセパンサーキットでもあり、そういう意味では今回も決して楽な展開では無いと思われるが、暑さとの戦いでもあるここセパンで若さを武器にどこまで戦えるか？

まずは予選での戦いに期待を掛ける展開となった。

Keeper  
LABO

DIAMOND Keeper

CRYSTAL Keeper

PURE Keeper

SONAX

T.D.P.  
TOYOTA YOUNG DRIVERS PROGRAM

ほうらいせん

KYB

MSF  
Mobile Software Foundation

BRIDGESTONE

GR GAZOO Racing

Racing Development  
TRD

## 公式練習

6月9日(土) 10:00~12:00

迎えた公式練習。  
前日までは、いかにもセパンという暑さであったが、明けた土曜日は朝から曇り空。  
どんよりとした空からは今にも雨が降り出しそうな天候のもと、フリー走行が開始。  
まずはここセパンをGT300クラスで走行経験のある国本がステアリングを握りコースイン！



マシンとコースのコンディションを確認し、数周してはピットに戻り車高、サスペンション、空力といった部分を中心にセッティングを進める展開。

曇り空という事もあり、各車想定していた気温・路温よりは低めの方向となり、タイム的にはソフトタイヤユーザーが上位を占める流れであるが、決勝レースは再び晴れる方向という予報もあり、Keeper Kraft SC430は暑い決勝を想定したセッティングを進める。

セッション開始から1時間10分程した所でドライバーをカルダレツリへと交代。セパンサーキット自体が初めてであるカルダレツリはコースを慎重に確認しながら徐々にペースを上げ走行を続け、30分程走行した所で混走セッションを終了。その後10分間のGT300クラス走行時間帯を挟み迎えたGT500走行時間帯、今度は再び国本がステアリングを握りコースイン。

決勝を考え一番固めのタイヤでコースへと出ていった国本は3周目、4周目とアタックを行い14番手とした所でセッションが終了。

午後の予選に向け最後のセットアップを行いフリー走行を終了。スーパーラップ進出を掛け予選での活躍に期待が掛かるフリー走行となった。



## 公式予選

15:45~

迎えた公式予選。  
朝のデータを元に足回りに変更を加えた「Keeper Kraft SC430」のステアリングを握るのは国本。  
今回はスーパーラップ方式の予選となる為、まずはこのQ1で上位10台に入る事が肝心。

15分間のセッション、開始5分程過ぎた所で国本は満を持してコースイン！

慎重にタイヤに熱を入れ計測ラップへと入るが、セクターベストを記録していた2周目、他車が突然エンジブロー！これにより赤旗が提示されセッションはSTOP！この時点で国本は12位、残り時間での1発のアタックに掛ける事となるが・・・果たしてこのUSEDタイヤでイケるのか？

残り3分でセッションが再開され国本は1LAPに集中してアタックを敢行！

見事に総合5番手のタイムを叩きだしスーパーラップ進出を決めた。

続くスーパーラップの担当はカルダレツリ、彼はここセパンをレーシングカーで走るのがなんと初めて！

そのカルダレツリは6番目の走行順から落ち着いてアタックラップへと突入全セクター、ミス無く渾身のアタックを決め、総合8番手で予選を終えた。

GT500でこのサーキット15周目となるラップでのこの順位は上出来であり、決勝に向け期待が掛かる予選となった。

Keeper  
LABO

DIAMOND Keeper

CRYSTAL Keeper

PURE Keeper

SONAX

T.D.P.  
TOYOTA YOUNG DRIVERS PROGRAM

ほうらいせん

KYB

MSF  
Mobile Software Foundation

BRIDGESTONE

GR GAZOO Racing

Racing Development  
TRD



## フリー走行

6月10日(日) 9:40~10:52



決勝日、いかにもマレーシアと言った天候のもと朝のフリー走行が開始。今回は海外戦という事もあり、前後にサーキットサファリが開催されるという変則的なプログラム。チームはこの時間を使って圧倒的にマイルの足りていないカルダレツリにステアリングを託す。

ここまで数える程の周回数しか走っていないカルダレツリは周を重ねるごとにコースに慣れ、結果6番手とまずまずのタイムを出した所で国本へと交代。代わった国本は2回目のサーキットサファリの時間帯を利用して、ブレーキローターへの焼入れ等を行いつつ最後のマシンチェックを行い、朝のフリー走行で予定していた全てのプログラムを無事に終了。決勝での上位進出に向け収穫の多い走行となった。

## 決勝レース(54Laps) 16:00 スタート



いよいよ迎えた決勝レース。

灼熱のマレーシアと言うこともあり、決勝レースのスタートは午後16時。

それでもここセバンの空はまさにピーカンとも呼べる程の青空。

立っただけでも足元からじわじわと熱を感じる程の気温の中、いよいよ決勝レースがスタート！

自身にとって初めてのコースとなるセバンでスタートドライバーを務めるのはカルダレツリ。予選8番手のポジションからフォーメーションラップをスタートし慎重にタイヤへ熱を入れながらバックストレートまで戻ってくるが・・・

隊列が整わなかったのかSCはピットに入らず、なんとそのまま2周目のフォーメーションラップへと突入！

全車落ち着いてもう1周のフォーメーションラップへと入り、この時点で決勝レースは53周へ減算。

今度はキレイに隊列が整ったようでSCがピットロードへと消え、コントロール

ライン上のシグナルがグリーンとなり全車一斉にクリーンスタート！カルダレリも慎重にスタートを決めるが、初めてのコースで序盤は慎重に行こうとしたか・・・2周目に#19にかわされポジションを一つダウン。しかしながら#24が緊急のピットインを行った事で再び8位へと順位を戻し、6周を過ぎた頃には#19とテールtoノーズの状態に・・・ベースの上がらない#19のペースに暫く付き合う走行となるが、これにより後続も繋がってしまい、またこの頃になるとGT300クラスの周回遅れも現れかなりの団子状態。

こうなると経験不足が仇となったか？ GT300を交わすちょっとしたタイミングを利用され、#6、#39、#1に連続でかわされ一気に11位までポジションダウン。厳しい洗礼を受ける事となったカルダレリだが、そこから再び集中してドライブを続け20周目、ついに前を行く#19を捉え10位とすると23周目には#100のピットインもあり9位、その後も他車のルーティンストップが続く中ポジションを4位まで上げた26周目、ついにカルダレリもピットイン！

タイヤ交換、燃料補給、ドライバー交代を速やかに済ませ、各車の順位が落ち着いた28周目、国本の順位は10位。

前を行く#23をコンマ5秒上回るタイムでコンスタントに走行を続ける国本は、ついに35周目、#23を完全に射程圏内に捉える。

が・・・#23に頭を押さえられる形となった国本の背後には更に速いペースで#17も迫り、40周を過ぎた頃には完全に三つ巴の展開、国本は後ろも気にしなければならない状況。

このタイミングで再びGT300クラスの周回遅れも絡んでおり・・・国本にもやはり若さが出たか？ 43周目#17に先行を許し11位となってしまふ。

しかしながら・・・続く44周目に上位を走る#1と#36が接触しコースアウトとなり、国本は難なく9位ポイント圏内へと再浮上！

いよいよこれでポイント圏内となり、更に上位を目指すべくペースを上げるが本人曰く「抜くつもりもなく普通に入った」45周目の1コーナーで前を行く#23と軽く接触。結果8位へと上がり、そのままチェッカーを受ける事となったがレース後にこの接触がペナルティ対象となり、結果30秒加算の10位完走ポイントゲットでレースを終える事になった。



### チーム監督 飯田 章

走り出しは難しい問題もあったのですが、エンジニアとドライバーが頑張ってくれて、予選から決勝に関してはマシンは良い状態であったと思います。今回なんとか目標としていたポイント圏内でのレースは出来ましたが、まだまだ課題も多く、宿題は山積みだと思います。チームもドライバーもやっと戦える状態になって来たと思いますので次戦からは期待して頂きたいと思います。



### 国本 雄資

今回8番手スタートとポイントが狙えるポジションからのレースだったのでモチベーションも高く、アンドレアから代わり10位からプッシュして走ったのですが、#23と接触してしまいペナルティを受けてしまいました。自分としては最後までしっかりと走る事が出来たし、今後の課題もしっかりと見えたので収穫の多いレースでした。次戦も必ずポイントを取れるように頑張ります。



### Andrea Caldarelli (アンドレア・カルダレリ)

今回僕は初めてのセパンで、土曜日あまり走れないままのスーパーラップだったので・・・少し難しかったのですがなんとか8位となって・・・決勝も8番手からスタートドライバーを務めたのですが、GT300クラスのオーバーテイクに手こずっている間に数台に抜かれてしまい・・・経験の少なさが出てしまいました。

これを教訓に自分の課題も分かったので、次回はもっと上位でフィニッシュしたいと思います。

KeepPer  
LABO

DIAMOND KeepPer

CRYSTAL KeepPer

PURE KeepPer

SONAX

T.D.P.  
TOYOTA YOUNG DRIVERS PROGRAM

ほうらいせん

KYB

MSF  
Mobile Software Foundation

BRIDGESTONE

GR GAZOO Racing

Racing Development  
TRD

## 予選結果

順位	ゼッケン	車名	ドライバー		タイム
1	18	ウィダー HSV-010	小暮 卓史	カルロ・パンダム	1'55.321
2	38	ZENT CERUMO SC430	立川 祐路	平手 晃平	1'55.504
3	23	MOTUL AUTECH GT-R	本山 哲	ミハエル・クルム	1'55.665
8	35	KeePer Kraft SC430	国本 雄資	アンドレア・カルダレッリ	1'57.380

※上位10台はスーパーラップでのタイム

## 決勝結果

順位	ゼッケン	車名	ドライバー		周回数
1	18	ウィダー HSV-010	小暮 卓史	カルロ・パンダム	53
2	38	ZENT CERUMO SC430	立川 祐路	平手 晃平	53
3	6	ENEOS SUSTINA SC430	伊藤 大輔	大嶋 和也	53
10	35	KeePer Kraft SC430	国本 雄資	アンドレア・カルダレッリ	53

## ポイントランキング(チーム)

順位	チーム	ポイント
1	LEXUS TEAM ZENT CERUMO	46
2	TEAM KUNIMITSU	44
3	LEXUS TEAM SARD	39
13	LEXUS TEAM KeePer Kraft	5

## ポイントランキング(ドライバー)

順位	ドライバー		ポイント
1	立川 祐路	平手 晃平	38
2	伊沢 拓也	山本 尚貴	25
3	脇坂 寿一	石浦 宏明	30
15	国本 雄資	アンドレア・カルダレッリ	1